

第12回ユネスコ国際生命倫理委員会  
「生命倫理と人権に関する世界宣言」の  
採択を受けて日本で初開催

編集部



## セッション

- 1 生命倫理の世界宣言をめぐって―次の課題
- 2 ユネスコ生命倫理宣言と文化の多様性―宗教・文化・民族と生命倫理規範
- 3 インフォームド・コンセント
- 4 社会の責任としての公衆衛生とヘルスケア
- 5 生命倫理の今日の問題と生命倫理の国際性―生命倫理のアジア的パラダイム

## 5 生命倫理の今日的問題と生命倫理の国際性—生命倫理のアジア的パラダイム

セッション5では、韓国、中国、シンガポール、日本、フィリピン、ベトナム、パキスタン、インドのアジア各国の研究者が「生命倫理の今日的問題と生命倫理の国際性」について議論。その中から、黒川清日本学術会議会長による基調講演を紹介しよう。

黒川会長は、この百年で生命科学がどのように進歩してきたのかを振り返りながら、「なぜ西洋の科学と技術が世界を支配してきたのか」



黒川清 日本学術会議会長



セッション5 生命倫理の今日的問題と生命倫理の国際性

という大きな問いを投げかけ、アジアの人口の増大・文化の多様化における課題を示した。  
まず、人類の人口が飛躍的に増大してきた経過を次のように振り返った。

「二千年前に、人口は一億人に達した。みなさん方の国でどれくらいの人口であったかを想定して欲しい。一千年かかり、その数は二億人に倍増した。当時どのような世の中になっていたかを考えて頂ければ、家族生活、社会生活、当時の規範がどのようなものであったかを想定して欲しい。西暦一五〇〇年頃には約五億人になり、ダ・ヴィンチの最後の晩餐が描かれた頃である。そしてアインシュタインの五つの論文が書かれ、一九〇三年のライト兄弟の初飛行により人類の活動領域は大空に広がった。時間と空間が短縮され、交通や通信の時間も広く短くなった。われわれの生きかたの価値も共有されるようになった。二千年前のローマ帝国の頃の

余命はせいぜい二十五年だった。今から百年前には知識も蓄積され衛生もよくなり、文明が発達し、余命も四十五歳くらいになった。百年かけてさらに四十歳延びることになったが、生命の価値、家族の価値、社会の価値はあまり変わっていない。現在六十四億人に達し、二〇五〇年には九十億人になると言われている」。

そして、人口の増大の要因でもある科学技術の進歩については次のようにまとめた。

「二十世紀を振り返ると世界大戦がありそれが一つのパラダイムとなって軍事目的の技術開発に先導された民生技術の普及が起きるなど、科学技術が人々の生活や経済活動に深く浸透するようになった。医学と生命科学の進歩により人口も拡大した。そして高齢化社会になり生活様式も全く変わった。二十一世紀の人口は引き続き延びていくと言われている。この人類の活動は地球環境問題でも、気候、水、食糧等に非常な負荷を与えるだろう。科学は進歩するが、その実績をどのように使うかということが、その時代の状況によって変わる。世界大戦で武器の開発に投資が回り、アインシュタインでさえ、その論文をもとに核エネルギーがつけられ、日本に原爆が投下された。六十年を経て、日本の電気の40%が原子力発電によるものだ。アインシュタインはそれを予測し得ただろうか。それが科学の実績だ。I V F (体外受精)の最初の誕生は三十年前だったが、既に日本でもI V Fの赤ちゃんは一人を超えている。ヒトゲノムの解読によっ

て遺伝治療やヒトクローニングといったいろいろなことが可能になっている。予測し得ぬ技術がこれからも現れるだろう。三十年前には考えられなかったことが可能になっている」。

そして、「生命の価値、倫理これは私たちの文明・文化の産物・所産である。それならば、なぜ西洋の科学と技術が世界を支配してきたのかを問うてみないといけない」と提示して話を展開した。

「なぜ科学は西洋から来たのか。私は答えを持っていない。皆さんは倫理の専門家である。キリスト教、ユダヤ教的な生命の視点が支配的であるが、アジアの視点は別にある。生死の問題は西洋とは違った起源があるからだ。西洋の科学と技術はアジア的なまたは各国の歴史的に蓄積してきた見方とは相容れない点もある。アジア地域は世界人口の60%を占めている。この地域は非常に多様な宗教、文明、民族の背景をもっている。一九八〇年からこの二十年の世界人口をみると、四十億人から六十億人に増えていることが分かる。この50%の増大にもかかわらず、キリスト教徒は30%を占め、非常に大きい。ヒンズー教徒は8%、仏教徒は6%、イスラム教徒は16%から20%にこの二十年で増えている。今後、向こう十年で10%イスラム人口は増えると言われている。イスラム教徒の60%がアジア太平洋にいてということは、イスラムの文化もある、アジアの文化もある、ということ、バイオテクノロジーが進展するかどうか。一つの大きな課題でありチャレンジだ。それがわれわれの時代の

グローバルゼーションの一つの課題だと言える」。

そして、最後に「今世の中で何が起きているのか、知識社会、ナレッジ社会だというわけだ。ナレッジベースの社会なので、皆様方の経験と能力、ナレッジに負うところも大きい。国際組織の皆様方からこの時代に良い時代をもたらして頂きたい」と期待して講演を終えた。